活かされる『番組小学校』③　～姉小路通を通って元立誠小学校へ～

1869（明治 2）年に開校した番組小学校は 64 校ありました。しかし都心部の人口流出や少子・高齢化による児童･生徒数の減少に伴い小中学校の統合が行われ、閉校施設が多数生み出されました。そこで京都市は、小学校跡地の活用についての方針をまとめ、市の事業として活用を進めました。元明倫小や元龍池小は校舎を保存活用した事例ですが、市の事業だけでは活用が進まなくなり、近年、民間事業による活用もスタートしました。その一つの元立誠小学校に向かいましたのでご覧下さい。

《ご紹介》

京都市の番組小学校の保存活用については、これまでに①元明倫小学校（京都芸術センター）と②元龍池小学校（京都国際マンガミュージアム）を紹介したが､1990 年代から始まる学校跡地の活用について簡単にまとめておこう。

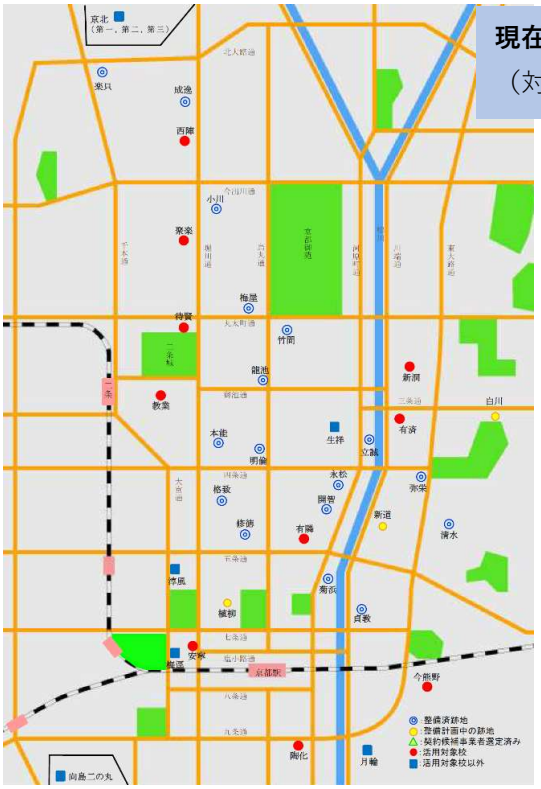
京都市の人口は､1990～2020 年の 30 年間で、146.1 万人から 145.8 万人へと 3 千人が減少したが、7 ～12 歳人口に限れば 9.6 万人から 6.6 万人へと 3 万人も急減した。このような児童・生徒数の減少に伴い小中学校の統合が行われ、閉校施設が多数生み出された。

学校跡地は小学校としての役割を終えたとはいえ､今もなお地域住民の｢自治活動拠点｣であり、地域の「防災拠点」としての役割を担っている。しかし施設は老朽化していくが改修が難しい状況にもあった。そこで京都市は、1994（平成 6）年に「都心部における小学校跡地の活用についての基本方針」（旧方針）を定めた。その考え方は、(1)原則として京都市の事業としての活用を行う､(2)地域コミュニティに配慮した活用を行うということであり、旧方針の下で、元明倫小や元龍池小をはじめ、元成逸小､元小川､元梅屋小､元竹間小､元本能小､元開智小､元修徳小､元菊浜小の活用が進められた｡このほか元滋野小､元初音小､元永松小が教育施設などに利用された。

その後、京都市の財政難もあって学校跡地の活用が進展せず、一方で少子化等が進み学校統合がさらに進展したことから、京都市は 2011（平成 23）年に「学校跡地活用の今後の進め方の方針」を定め、京都市事業に加え、公共的・公益的団体による事業や民間事業による活用も可能とした。そして翌年「京都市資産有効活用基本方針」（新方針）を定め、長期にわたり敷地を全面的に活用する事業を対象に民間等事業者からの募集提案を開始した。

この活用に当たっては､(1)土地は売却せずに貸付け､(2)地域住民の自治活動・防災拠点を確保､(3)京都市の課題を解決､(4)活用後も地域住民・京都市・民間等事業者の三者による協議を継続することとした。

新方針の下で、元弥栄小（漢字ミュージアム）、元貞教小（京都美術工芸大学 京都東山キャンパス）､元清水小（ザ･ホテル青龍 京都清水）､元立誠小（立誠ガーデン ヒューリック京都）などが活用されていったのである。（※）

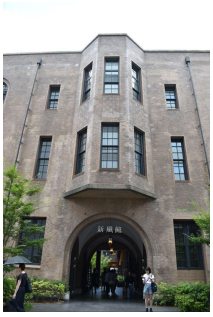


※参考：「京都市における公民連携による公共建築の活用」（松田彰）スライド 5～24
【https://kikod.club/sympo2023.pdf】

そこで、元龍池小学校（京都国際マンガミュージアム）から姉小路通を東に行き、木屋町通を南に下って高瀬川西岸の元立誠小学校に行った。姉小路通は、京都の近代化の象徴である三条通と戦後に拡幅整備された御池通に挟まれた幅員 6～7 メートル程度の小路だ。烏丸交差点には、1926（大正 15）年竣工の旧京都中央電話局を保存活用した新風館が建っている。日本近代建築のパイオニア吉田鉄郎が設計し、烏丸通に面して連続したアーチが特徴の旧京都中央電話局は、京都市の登録文化財として烏丸通の風格を一段と高めている。烏丸通の東から寺町通の西までの「姉小路界隈」では、バブル期の高層マンション建設を契機に、住まいと生業が共存する行儀よく品格あるまちをめざしたまちづくりが取り組まれてきた。その結果、風俗営業などの用途を制限する地区計画や建築物の高さを 18 メートルまでとする建築協定を定め、さらに京都市から地域景観づくり計画書の認定を受けて良好な景観づくりを進めており、職住が共存するヒューマンスケールの町並みとなっている。

姉小路通は寺町通で少し南にずれた後、高瀬川東岸まで続き、そこから南に約 400 メートル下ると元立誠小学校だ。下京第 6 番組小学校として 1869（明治 2）年に開校した同校は、当初河原町通の西側にあったが、1924（大正 13）年の新京極の大火で校舎が類焼し、河原町通の拡幅で敷地が大幅に削られ校地として立ちゆかなくなることなどから現在地への移転を決定し、4 年後の 28（昭和 3）年に鉄筋コンクリート造 3 階建て新校舎が竣工した。ロマネスク様式の校舎には「左右対称」「バルコニーや飾り模様」「アーチ使用」など美学的な観点も取り入れたモダンな造りとなっていて、普通教室のほか理科室・地歴室などの特別教室 9 室と雨天体操場を備え、校内には京都市内で初めての校地内プールも造られた。（続く）

➢　旧京都中央電話局（新風館）



➢　姉小路界隈

➢　元立誠小学校

コロナ開け　集う学び舎　モダン泊